

第Ⅱ集発刊に際し

理事長 梅田 巖

第1集を金物部会・安全委員会が発行したのは平成4年5月のことでした。組合員の方々にご利用いただけて、関係省庁、建設会社からも好評を賜ったことが思い返されます。

しかし事例が金物工事に限られていたため、やがて既製杭工事、場所打ち杭工事についての事例集もほしいとの要望が多数寄せられました。これを受け安全委員会で第2集の構想を暖めてまいりましたところ、昨年になって「5年を経るのを機に」との呼び声が高まり、多くの方のご協力により発刊の運びとなりました。

本書には金物工事、既製杭工事、場所打ち杭工事のそれぞれを盛り込んでおり、年月は経ましたが皆様のご要望に応えることができました。安全作業への社会的要請が厳しさを増すなか、災害防止にいささかでも役立てて頂き、基礎工事従業者の命がますます尊重されんことを願う次第です。

目で理解して頂くために

安全委員長 阿部 真治

第1集の編集方針をほぼ踏襲し、100の事例をイラスト主体にまとめました。とかく文章で工事現場を描写しようとするとうるさくなってしまいがちです。コミック風の絵を配すれば、気軽にページをめくって頂けるのではないかと、そのうえ目でとらえて頂くことで理解も容易になるのではないかと、このように考えてのことです。

理解第一を旨とする本書が想定する読者としては、まず現場従事者や職長などがあげられるでしょう。個々人に読んで頂くなり講習会のテキストにして頂くなり考えられます。しかし第1集は意外にも監督官庁やゼネコンの方々にも用いられ、異なった立場のひとがそれぞれの利用の仕方をして下さいました。とすれば第2集も安全に関わる多くのひとに愛用されそうな気がしてなりません。

もともとは組合員と基礎工事従業者のために作られた本書ではありますが、基礎工事の安全向上をめざす多方面からの取組みに利用されれば、ひいては組合員各社の安全作業に結びついてゆくことと存じます。

体験を語るのは自らの責務

編集委員（安全委員） 志摩輝高
（安全委員） 中川 隆
（事務局） 清水 進

そもそも事例集を集めることになったのは、金物部会・地域ブロックの会合で「事故を経験していない社はないはずで、それらを持ち寄れば貴重な教訓となる」との意見があつてのこと。そして金物部会員の熱意によって第1集が刊行されたわけですが、第2集も同じような考えのもと、全組合員の協力によって実現をみたのでした。

なぜ事故例集を作るとき組合員の熱意がかくも糾合されるのか、ひとりはこちら語っています。「事故を起こすともう二度とこんなことは経験したくないと思う。この気持ちは誰でも同じだろう。だから自社の体験を例集上で語ることは、同業者に同じような事故を起こさせないためであり、これは自らの責務でもある」

本書をまとめるにあたっては、多くの組合員に事例を提供して頂きました。事故の体験をオープンにすることに抵抗感をもった方もいらしたでしょうが、最終的には体験を業界全体のためにと協力を踏み切ってくださいました。これらの熱意に我々の手作り同然の本がどこまで応えることができたか、はなはだ心もとないところですが、ご協力くださった方々には心より御礼のほど申し上げます。

また、社団法人コンクリートパイプ建設技術協会殿、日立建機(株)殿、日本ヒューム管(株)殿からは事例や資料のご提供を頂き、興和(株)西村新栄殿からは技術面でのアドバイスを賜り、ここに厚く御礼申し上げます。

【目 次】

I 金物工事での事例

1 転倒（建機、資材）	1 - 6
2 落下（物）、墜落（人）	7 - 16
3 はさまれ、はねられ	17 - 28
4 飛来、火傷、部品脱落	29 - 31
5 感電	32 - 33

II 既製杭工事での事例

1 転倒（建機、資材）	34 - 51
2 落下（物）、転落（人）	52 - 63
3 はさまれ、ひかれ、巻きこまれ	64 - 71
4 飛来	72 - 73

III 場所打杭工事での事例

1 転倒（建機、資材）	74 - 76
2 落下（物）、墜落（人）	77 - 83
3 はねられ	84

IV 各工法共通の事例

1 転倒（建機、資材）	85 - 88
2 落下（物）、墜落（人）	89 - 95
3 はさまれ、ぶつかり	96 - 98
4 輸送事故	99 -100

V + α の事例

1 その他の事例	101 -115
2 作業の種類別資格者等一覧表	116 -117
3 危険予知（KY）の手法	118 -119